

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波

広報 | 京丹波

NO.115

2015年5月15日発行

5月号

期待と不安を胸に
新生活がスタート



ゾーン30となった区域



これにより、ゾーン内を通過する車の速度抑制と、国道などの幹線道路の抜け道として利

ぞれ立場は違いますが、交通安全に対する思いは一つだと思います。実効のあるゾーン30にしていきたい」と述べました。

開始式後、出席者らは、小・中学校の離任式のために登校する小・中学生らに「おはよう」と声かけしながら、通行



整備が進む「ゾーン30」

このたび整備したゾーン30。どういったものなのでしょうか。

する車のドライバーに、ゾーン30の周知と安全運転を啓発していました。

ゾーン30とは、警察と道路管理者などが協議して整備するもので、

生活道路での歩行者を守るために一定の区域内を「ゾーン」として設定し、自動車の速度を比較的重大な事故になりにくいとされる時速三十キロ以下に抑制するなどの安全対策を実施するものです。



通過する車にゾーン30を啓発する交通安全協会役員ら(町瑞穂支所前・橋爪)



ゾーン入り口に設置された標識と道路標示(和田)



設置の効果は

小・中学生の通学路となるゾーン30の区域。全国的には通過する車両の速度低下、事故件数の減少など一定の成果が見られるようです。

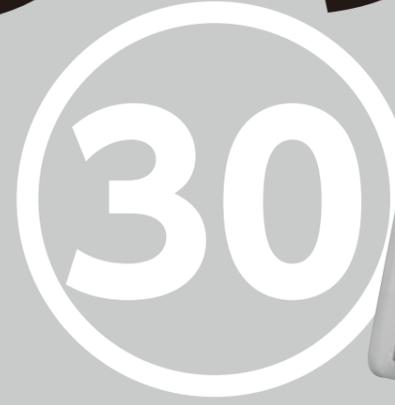
町内では、このたびのゾーン30だけでなく、地域の見守り活動など、子どもたちを守る取り組みが行われています。それぞれの活動により、安全なまちづくりは進んでいきます。



ゾーン30を啓発する人たちに見守られ通学する児童(橋爪)

歩行者の安全確保へ

ゾーン



区域を設定

町では、生活道路の安全対策として瑞穂支所周辺の町道を「ゾーン30」に設定しました。子どもや高齢者などの歩行者を交通事故から守る取り組みを紹介します。

交通安全を啓発

町と南丹警察署は、今回整備したゾーン30の開始式を、四月三日、ゾーン内にある町瑞穂支所前で行いました。

式には、町と南丹警察署、南丹船井交通安全協会京丹波支部役員のほか、ゾーン内の区長や通学路となる小・中学校長などが参加しました。

式では、南丹警察署の谷口真紀夫交通課長が「京丹波町では、初めてのゾーン30。地域の皆さんと町、警察が一体にならないと整備されないものです。それ



今月の表紙

町内の保育所、幼稚園、小学校、中学校でそれぞれ、入所式・入学式が行われました。新入生らは、緊張した面持ちで新生活をスタートさせました。

No.115 CONTENTS

- 2 歩行者の安全確保へ
ゾーン30区域を設定
- 4 子どもたちの笑顔があふれる地域へ
「京丹波町子ども・子育て支援事業計画」を策定
- 6 全線開通へ大きな一歩
京都縦貫自動車道貫通祝賀式
- 8 子どもたちの健やかな成長へ
「京丹波町食育推進計画」を策定
- 11 ホッケー競技のさらなる活性化へ
グリーンランドみずほホッケー場の改修が完成
- 12 人の動き
- 14 活性化の起爆剤に 地域おこし協力隊
- 15 Dr's Message いきいき健康術
- 16 ・65歳以上の方の介護保険料を改定しました
- ・地域経済の活性化へ
地方創生スーパープレミアム商品券を販売します
- 18 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2015
- 安心・安全への活動を誓う
—消防団入退団および役員任命式
- 心と空間を演出
—ふるさと人形展
- 長年の功績に感謝
—行政相談員感謝状贈呈
- 継続した支援の力
—スポーツ少年団双葉町支援活動
- 新生活がスタート
—入学式・入所式

子どもたちの笑顔があふれる地域へ 「京丹波町 子ども・子育て支援事業計画」を策定

まちの将来を担う子どもたちが、健やかに成長するためのまちづくりを進めるため、町ではこのほど、「京丹波町子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。

子育てしやすいまちを目指して策定した計画の概要などをお伝えします。

策定の経過

町では、平成二十五年八月二十七日、原清治佛教大学教育学部部長（教授）を会長とする子ども・子育て審議会に町立幼稚園・保育所のあり方などとともに、計画策定について諮問しました。

審議会では、九回の会議とともに、町内の子どもたちの保護者に対するアンケート、保育所と幼稚園の現地踏査、広く意見を求めるパブリックコメントを実施。平成二十七年二月十二日、原会長が寺尾豊爾町長へ答申しました。

計画期間

この計画は、平成二十七年度から平成三十一年度までを計画期間とし、子どもや子育てを取り巻く社会状況の変化により、必要に応じて見直します。

子ども・子育てビジョン（基本理念）

子育てをみんなではぐくむ地域の輪

四つの基本的視点

この計画を策定・推進するうえで、次の四つの基本的視点を持つこととします。

- 1 子どもの幸せを第一に考える視点
- 2 すべての子どもと子育て家庭を支える視点
- 3 地域社会全体で子どもをはぐくむ視点
- 4 地域の特性・資源を積極的に活用する視点

地域で子どもを育てるための重点施策

- 子どもが健やかに成長するうえで重要となる最も身近なコミュニケーション組織「家庭」。子育て家庭のフォロー体制の構築、切れ目のない子育て支援を提供するために、次の項目を重点施策として取り組みます。
- (1) 子育て家庭を孤立化させない取り組み（保健師による面談・電話相談、乳幼児健診・乳児相談、子育て支援センターなど）
 - (2) 子どもの成長をサポートする切れ目ない支援体制（発達支援事業、かかりつけ医づくりの促進、学習支援員配置、特別支援教育など）
 - (3) 地域社会全体で子育てを支援する取り組み（地域連携による学

三つの基本目標

計画では、基本理念と基本的視点を踏まえ、三つの基本目標の達成を目指します。

- 基本目標① 子どもがいいきいきと健やかに育つ環境づくりをめざす
- 基本目標② 安心して子育てができる地域づくりをめざす

環境づくりを整備することは、現行の制度の枠組みでは難しい状況にあります。

しかしながら、子ども・子育て支援新制度では、幼保連携型認定こども園の基準見直しが行われ、幼稚園と保育所の良さを生かした運営が可能となりました。

このことから、幼保連携型認定こども園への移行を目標に定め、取り組みを進めます。

② 質の高い幼児期の教育・保育、地域の子育て支援の役割およびその推進方策

乳幼児期の発達が連続性を有すること、幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培うことに十分留意し、妊娠期を含む全ての子育て家庭に適切なサービス・事業の利用を促進するとともに、質の高い教育・保育サービスおよび地域子ども・子育て支援事業を提供するよう、関係機関と連携して取り組みます。

③ 幼児期の教育・保育と小学校教育（義務教育）との円滑な保幼小連携の取り組みの推進

次代を担う子どもたちの健やかな成長を見守り、はぐくんでいくため、関係する人たちがそれぞれの役割や責任を再認識し、連携をより一層強めていく必要があります。

町では、福祉、保健・医療、教育をはじめとする各分野が横断的な推進体制の強化を進めるとともに、住民の皆さんとの協働の推進、国や府との連携も併せて推進します。

計画の実現に向けて

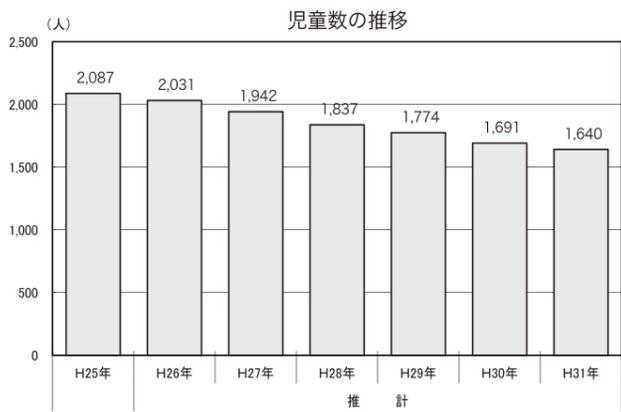
④ 保幼小の連携に係る取り組み

教育・保育および地域子ども・子育て支援事業を二元的に行うとともに、その他の小学校就学前子どもなどにかかる施策との緊密な連携を図ります。

将来の子ども人口

校運営、地域の子どもの見守りなどにおける連携強化、園児と地域の交流促進など）

住民基本台帳による本町の〇～十七歳の児童数は、減少傾向で推移しています。*コーホート変化率法を用いた推計人口では、平成二十五年度の二、〇八七人（二二・九％）から平成三十一年度には一、六四〇人（二一・三％）まで減少するものと想定されています。（表参照）



幼児期の教育・保育の方向性

子ども・子育て支援事業計画では、幼児期の教育・保育の一体的提供および推進体制の確保について、次のとおり示しています。

① 認定こども園の普及にかかわる考え方

すべての就学前の子どもが、平等な条件のもとで幼児教育・保育を受けられる体制づくりと、就労の有無にかかわらず希望する園に入園でき

【用語説明】*コーホート変化率法…各

コーホート（同年または同期間）の過去における実績人口の動態から「変率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。



貫通した瑞穂トンネル(水呑)



くす玉を開き、貫通点火ボタンを押す参加者

全線開通へ大きな一歩

京都縦貫自動車道

貫通祝賀式

平成二十七年七月に全線開通が予定される京都縦貫自動車道。現在、工事も大詰めを迎えています。

同自動車道でこのほど、難航していた瑞穂トンネル(水呑―大簾)が貫通。祝賀式が行われました。

トンネル内で行われた貫通式の様子をお伝えします。

難工事を乗り越え貫通

京都縦貫自動車道は、当初、平成二十六年度末の開通を予定し、全線開通までの最後の区間となる丹波インターチェンジと京丹波わちインターチェンジ間の工事が進められていました。

しかし、水呑地区と大簾地区にまたがる「瑞穂トンネル」の工事が、掘削中に地質の弱い「破

砕帯」にあたり、大量の湧水が噴き出すなどして難航。このたび、その工事を終え、全線が貫通しました。

関係者らが集い貫通を喜ぶ

今回の貫通を祝う祝賀式が、三月二十九日、瑞穂トンネル内で行われました。貫通祝賀式には、山田啓二京都府知事や寺尾豊爾町長をはじめ、京都縦貫自動車道沿線の市長や関係者などが参加しました。

祝賀式では、山田知事が「長い年月、多くの皆さんの悲願の中でこまできることができました。この道路は、災害時の緊急輸送、京都の背骨としての基幹道路、産業・観光の大きな動脈として、果たさなければならぬ役割は大きなものがあります。あとは、全線開通に向けて最後の仕上げを行っていきたい」と七月の全線開通へ向けた思いを述べたほか、寺尾町長も「唯一未貫通であった瑞穂トンネルは難工事であり心配していましたが、多くの人が開通の日を心待ちにされているので、残りの工事が無事行われ、全線開通の日を迎えられることを願っています」と、全線開通への期待を込めてあいさつを述べました。

また、式では、山田知事や出席者の代表による貫通点火とくす玉が開かれ、奥深く続くトンネルが現れると大きな拍手が起こりました。



祝辞を述べる寺尾町長



祝辞を述べる山田知事



祝賀式に参加した人たち

子どもたちの
健やかな成長へ

「京丹波町食育推進計画」を策定



町ではこのほど、18歳までの子どもとその保護者を対象とした「食」に関する指針「京丹波町食育推進計画」(以下「計画」)を策定しました。
「食」を通じた子どもたちの健やかな成長とともに、「食」をテーマにした世代を越えた交流により、「笑顔」があふれるまちをめざした計画の概要を紹介します。

基本理念 笑がおで食育

「食」を通じて子どもたちの健やかな成長とみんなが笑顔の交流を

人が生きていくためには「食」すなわち「食」べることは欠かせず、心身の健康の増進と心の豊かな人格形成のために重要なことです。日本には、それぞれの土地の風土にあつた「食」を育み、暮らしの中で知恵や経験、地域の特性を生かした食事を創造し、伝承してきた歴史があります。しかし、近年は、生活様式が変化し、特に食に関する問題も生まれています。そこで、計画の理念を「笑がおで食育」とし、

「食」にかかわるすべての情報を個人、家庭、地域、関係機関が共有・認識し、目標に向かって一体となつて「食育」の取り組みを進めることとしました。また、計画の基本理念を推進するために、理念の言葉を引用し次の基本方針を定めて、京丹波町に住む子どもから高齢者までが、生涯にわたつて「笑顔」で過ごせるまちを目指します。

三つの柱で計画を推進
「笑がおで食育」を基本理念にかかげた食育推進計画。計画では、理念に基づく取り組みを推進するために、理念の一部分を引用し「食」が育てる「食、お(を)育てる」食、で育てる」という三つの方針を掲げています。方針ごとの目標と取り組み内容は、次のとおりです。

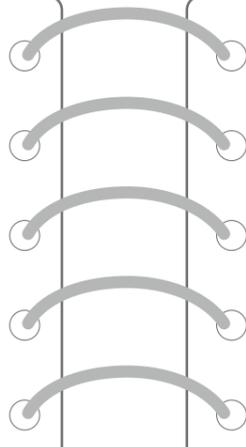
①食が育てる

〜感謝するところを育む〜

京丹波町の子どもたちが「食」を通じて人とのつながりを楽しみ、食べることに感謝し、食の大切さを感じることができ、支援を行います。

具体的目標

- 食事のマナーを身に付けて、みんな楽しく食べよう
- 食事のあいさつをしよう
- 食べ物を大切にしよう
- よくかんで味わって食べよう



取り組み内容

- 「やさしい」の栽培や収穫を体験しよう
- 「ミニミニケシシ」力、達成感、感謝する気持ち
- 京丹波町の特産野菜を給食やおやつにたくさん使おう
- 地域の食文化に親しもう



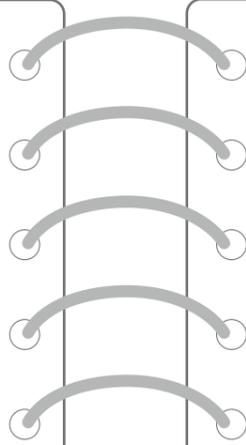
②食お(を)育てる

〜つくる喜び、食文化の継承を行う〜

京丹波町に住む人々が「食」を作る喜びを感じるように、農業体験や食文化を継承する取り組みを実践し、「食」をつなぐ役割を果たす担い手の育成を支援します。また、子どもたちと多世代間の交流を「食」を育てるかわりから行います。

具体的目標

- 就農希望者を支援しよう
- 「やさしい」をつくらう



取り組み内容

- 「やさしい」の生産体験を通じて交流しよう
- 「やさしい」を売り出そう
- 地産地消を推進しよう
- 生産者の生きがいづくりに取り組もう
- 「やさしい」の生産者の生きがいを高めよう
- 生産者の経験と知恵を多世代交流の中でどんどん生かしていこう
- 地域の特産野菜や食文化を継承していこう
- 「やさしい」の生産・収穫体験を通じて担い手を育成しよう



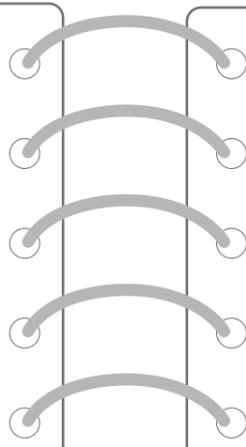
③食を育てる

〜食の知識や判断力を育む〜

京丹波町に住む子どもたちが、それぞれの年代に応じた健康に関する「食」の知識を身に付け、体験を通じて、健康づくりのための正しい判断力へとつなげていける支援を行います。

具体的目標

- 何でもしっかりとめようになろう
- 朝食をしっかりと食べて生活リズムを整えよう
- 体の発育と「栄養」の関係を知ろう



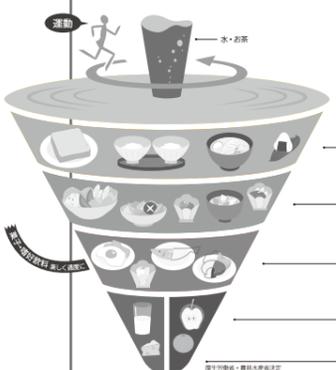
取り組み内容

- 「やさしい」をしっかりと食べる子どもを育もう
- 「やさしい」の味を覚え、しっかりとめよう
- 「やさしい」が体にとっても大切な栄養だと知ろう
- 朝食をしっかりと摂取して規則正しく食べよう
- 子どもたちの成長を通じて、大人も野菜の効果を知り食卓に野菜を提供しよう
- 簡単レシピを作ろう

食事バランスガイド

あなたの食事は大丈夫？

1日分	料理例
5.7 主食 (ごはん、パン、麺) ごはん1杯(約150g)またはパン1枚(約40g)	ごはん、パン、麺
5.6 副菜 (野菜、きのこ、海藻類) 野菜1杯(約100g)	野菜炒め、煮物、サラダ
3.5 主菜 (肉、魚、卵) 肉・魚・卵1杯(約100g)	肉・魚・卵の料理
2 牛乳・乳製品 牛乳1杯(約100g)	牛乳、ヨーグルト
2 果物 みかん1杯(約100g)	みかん、りんご



ホッケー競技のさらなる活性化へ

グリーンランドみずほ ホッケー場の改修が完成

町は、このほど、グリーンランドみずほ内にあるホッケー場の改修を行いました。

新しく生まれ変わったホッケー場の概要と完成式の様子をお伝えします。

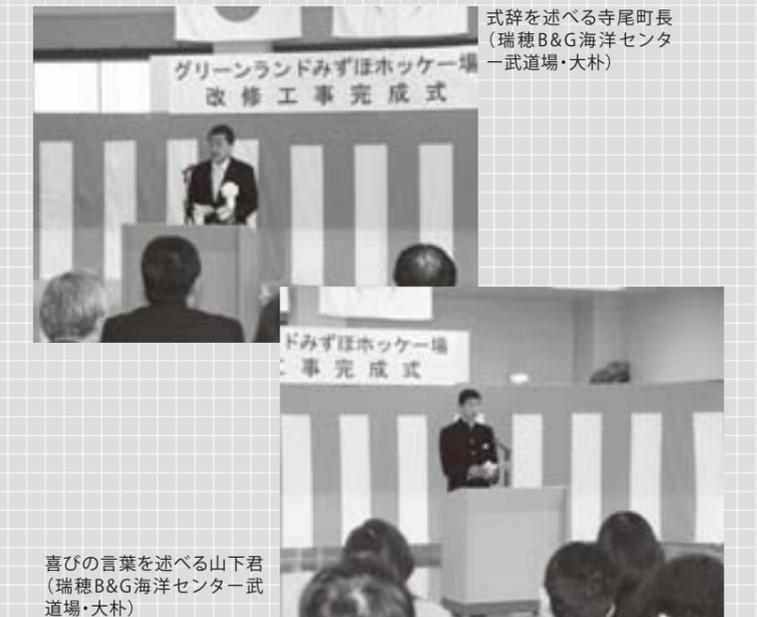
盛大に完成を祝う
完成式は、四月五日、あいにくの雨によりグリーンランドみずほ内の京丹波町瑞穂B&G海洋センター武道場で行われました。式には、寺尾豊爾町長をはじめ、京都ホッケー協会の大崎勲会長や、これからこのホッケー場を使って活躍する地元瑞穂中と蒲生野中ホッケー部の代表など関係者が参加しました。

改修までの経過
昭和六十年に誕生した「グリーンランドみずほホッケー場」。昭和六十三年の京都国体ホッケー競技の会場となった後、さまざまな大会が行われました。平成八年には、人工芝に全面張り替えが行われ、平成九年の全国高等学校総合体育大会(インターハイ)のホッケー競技では、激戦の舞台となりました。
張り替え後、十八年が経過し、経年劣化も著しい中、今年、近畿地方で行われるインターハイ(近畿総体)ホッケー競技のメイン会場となったことから、新たに人工芝の全面張り替えを中心とした改修を行いました。

改修工事の概要

- 人工芝**
人工芝面積 8,390㎡
ホッケーライン 11人制:1面
6人制:4面
*それぞれ白と青のライン
人工芝種類 ウォーターベース
芝葉材質 ポリエチレン
その他 公益社団法人日本ホッケー協会(JHA)公認ピッチ
グローバル規格
- スタンド設備**
観客スタンド
ベンチ:25m×4段×2カ所
- 散水設備**
自動散水:6カ所/手動散水:4カ所
- 周辺整備**
クラブハウス:1棟/器具倉庫:1棟
- 総事業費**
1億9,800万円
(工事費・設計費・備品購入費・ピッチ公認料など)
*この施設はスポーツ振興くじ助成金を受けて整備したものです

式では、寺尾町長が式辞を述べたあと、瑞穂中男子ホッケー部主将の山下蒼天君が「今日から新しい人工芝でホッケーができることになりうれしい気持ちでいっぱいです。たくさんの方々の思いが詰まったホッケー場でホッケーができることを誇りに思います。僕たちは、この素晴らしい環境でホッケーができることを感謝し、大切に使用させていただきます」と喜びの言葉を述べ、蒲生野中男子ホッケー部主将の山本淳貴君が両校ホッケー部員のメッセージが書かれた色紙を寺尾町長に贈りました。



喜びの言葉を述べる山下君(瑞穂B&G海洋センター武道場・大朴)

「京丹波町食育推進計画」を策定



京丹波町「健康増進計画」の 取り組み目標

- 病気の予防を理解して「やさい」を摂取できる人になろう
- 健診の結果を理解しよう
- 野菜を含めた栄養バランスに関心を持とう
- 男性も健康的な生活ができるスキル(買い物・調理など)を身に付けよう

「やさしい」を中心とした 取り組みを行います

「食」を通じた子どもたちの健全な成長を目指して策定した「京丹波町食育推進計画」。計画では、町民の多くの方が生産にかわり、生活習慣病予防にも効果がある「やさしい」をキーワードに取り組んでいくこととしています。
しかし、町健康増進計画の取り組み目標にも挙げている「やさしい」ですが、二十歳以上の成人を年代

別で見ると、若い世代ほど摂取量が少ない傾向にあります。(表1)
未来を担う子どもたちが、将来にわたり健康で毎日の生活を送るために、身近にある京丹波町の食材「やさしい」を取り入れた食生活を町全体で進め、食育推進計画に掲げる目標達成を目指します。(表2)

表1 「やさしい」をしっかり摂っていると答えた割合

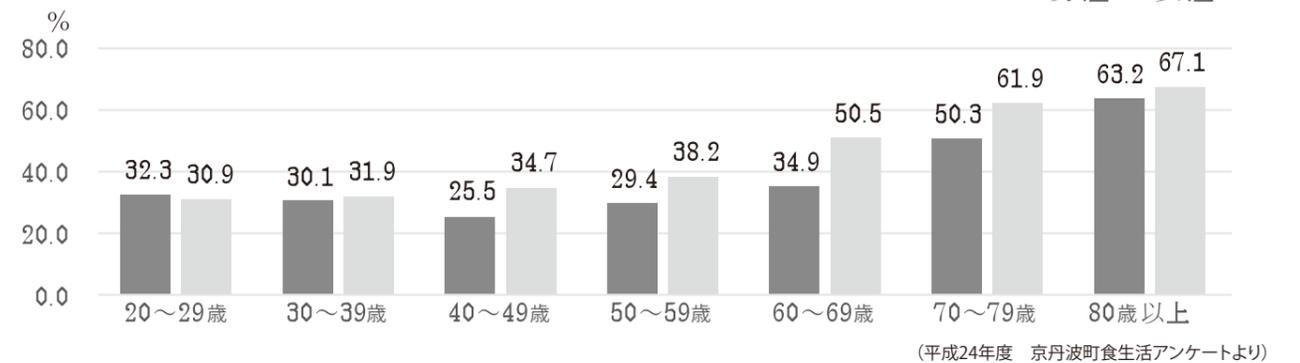


表2 「食育推進計画」の目標数値(抜粋)

目標項目	現 状				目標値
	小学校	低学年	高学年	5.0%	
朝食を食べない日がある人の割合	1.7%	9.8%	5.0%	0%	
	20歳代 男性	17.7%	女性	6.7%	
朝食をほとんど食べない人の割合	30歳代 男性	11.2%	女性	6.6%	
	40歳代 男性	10.3%	女性	2.4%	
	20歳代 男性	32.3%	女性	30.9%	
野菜をたっぷり使った料理を1日2回以上食べている割合	30歳代 男性	30.1%	女性	31.9%	
	40歳代 男性	25.5%	女性	34.7%	
	年4回	年12回	現状より改善		
野菜を使ったレシピの紹介	年4回	年12回			

人の動き

(敬称略)

KYOTAMBA TOWN

新しい年度を迎え、町内の各地区、学校、委員が変更となりましたのでお知らせします。

区長さんお世話になります



【丹波地区】

- 笹尾／一谷 聡
- 中畑／谷垣義一
- 辻村／山鳥秀夫
- 中村／宮本勝彦
- 下村／山田明義
- 鎌倉／水谷保雄
- 西階／船越 健
- 水戸／大崎克巳
- 新水戸／松田昌弘
- 須知／湊 嘉秀
- 市森／杉本 貢
- 上野／須知 穰
- 蒲生／田端長浩
- 蒲生野／大橋敏明

- 曾根／上田秀男
- 院内／坂本 優
- 幸野／野村 明
- 森／岡 秀夫
- 塩田谷／山本忠明
- 安井／谷山 均
- 富田／小山周平
- 豊田／人見 亮
- 上豊田／野口正利
- 実勢／小森清司
- 下山／林登志男
- グリーンハイツ／比村住ノ江

【瑞穂地区】

- 中台／伊藤嘉信
- 橋爪／渕上光雄
- 和田／折竹 博
- 井脇／森脇茂和
- 大朴／寺谷 齋
- 井尻／野田 進
- 八田／前田 勝
- 小野／谷内誠樹
- 長谷／徳岡 諭
- 坂井／山内千裕
- 水原／大村 修
- 上大久保／伴田 弘
- 下大久保／西田 勉
- 鎌谷下／田村康文
- 鎌谷中／熊原和美
- 鎌谷奥／上田 正
- 東又／軽尾 勇
- 保井谷／野村雅浩
- 粟野／竹内 学
- 妙楽寺／上田健之
- 水呑／藤井 保
- 三ノ宮／宇野栄晃
- 質志／岡花輝男
- 戸津川／後藤哲雄
- 猪鼻／梅垣茂信
- 行佛／阪本 豊
- 中村／狭間由浩
- 庄ノ路／林 光司
- 和田／上林淳一
- 上野／水嶋正治
- 下村／大西弘二
- 北久保／山内定夫

【和知地区】

- 中山／大槻三明
- 升谷／中野 諭
- 市場／梅原和弘
- 大倉／木上 学
- 篠原／中井 元
- 大迫／堀 定
- 長瀬／河谷勝治
- 塩谷／栗林英治
- 上乙見／片山輝夫
- 下乙見／白樫 貢
- 西河内／藤田 真
- 下栗野／江本直樹
- 細谷／藤村俊和
- 上栗野／梅原久弘
- 仏主／三嶋 浩
- 本庄／隅山卓夫
- 坂原／出野藤弘
- 中／片山俊博
- 角／松下太和
- 広瀬／片山雅和
- 才原／原田喜和美
- 大簾／才村久市
- 広野／片山孝良
- 出野／片山 崇
- 稲次／下村英司
- 安栖里／片山孝明
- 小畑／野間 勝

■教職員の異動

【転出()は転出先など】

- 竹野小／仙波尚子(瑞穂小・事務)
- 丹波ひかり小／木村友幸(下山小)
- ▼古屋恵美(和知小)
- ▼湯浅わかな(和知小)
- 下山小／教頭・藪本好史(瑞穂小)
- ▼森 真祐(南丹市立胡麻郷小学校)
- 瑞穂小／教頭・中倉良希(南丹教育局)
- ▼中野善文(竹野小)
- ▼北井松明(丹波ひかり小・事務)
- 和知小／池田あずさ(丹波ひかり小)
- 蒲生野中／
- 教頭・乾 正(府総合教育センター)
- ▼川勝 彰(丹波支援学校)
- ▼平井浩一(須知高)
- 瑞穂中／教頭・山本健二(和知中)
- 和知中／
- 一ツ石英俊(亀岡市立亀岡中学校)
- ▼出垣内智尋(南丹市立殿田中学校)

【転入など()は前任校など】

- 竹野小／
- 校長・日下部進(亀岡市立安詳小学 校・教頭)
- ▼中野善文(瑞穂小)
- 丹波ひかり小／
- 校長・塩谷由美子(南丹教育局)
- ▼池田あずさ(和知小)
- ▼中井典宏(南丹市立摩気小学校)
- ▼北井松明(瑞穂小・事務)
- 下山小／
- 教頭・田中敏夫(南丹市立摩気小学校)

【退職】

- 校長・山内朝文(竹野小)
- ▼校長・上田明成(丹波ひかり小)
- ▼校長・片山幸男(和知小)
- ▼教頭・田中健介(和知中)
- ▼薬師川洋子(竹野小)
- ▼湯浅公雄(瑞穂中)
- ▼大坪郁子(瑞穂中)
- ▼山本裕司(丹波ひかり小・事務)
- ▼沼田政治(和知中・事務)

■交通指導員(任期二年)

- 横澤久仁子(口八田)
- ▼谷 邦和(高岡)
- ▼原澤雅美(高岡)
- ▼藤坂健二(須知)
- ▼山内和代(須知)
- ▼柏木富雄(市森)
- ▼古林達也(蒲生野)
- ▼湊友三郎(曾根)
- ▼清水美千代(塩田谷)
- ▼猪阪義人(富田)
- ▼北村照雄(豊田)
- ▼篠塚寿来(実勢)
- ▼原野美佳(豊田)
- ▼山内秀文(下山)
- ▼澁井章彦(下山)
- ▼庄林 誠(中台)
- ▼保田志信(井脇)
- ▼谷掛 壽(上大久保)
- ▼山田俊隆(鎌谷中)
- ▼上林 篤(三ノ宮)
- ▼岬 建三(粟野)
- ▼山内敏行(質美)
- ▼橋野 茂(質美)
- ▼大熊明宏(下栗野)
- ▼山本 正(篠原)
- ▼池田建夫(大倉)
- ▼和田法広(坂原)
- ▼別所秀一(小畑)
- ▼十倉克也(安栖里)
- ▼才村清治(大簾)

■人権擁護委員(任期三年)

- 【再任】西田光子(下大久保)
- ▼友金一郎(大朴)
- ▼山崎要志(豊田)

■社会教育委員(任期二年)

- 中野 昭(豊田)
- ▼猪田浩和(蒲生)
- ▼横山美弥子(口八田)
- ▼澤井安子(質美)
- ▼太田明平(橋爪)
- ▼松野美代子(井脇)
- ▼折竹禮子(和田)
- ▼白樫 貢(下乙見)
- ▼高柳秀文(本庄)
- ▼正田哲也(小畑)
- ▼中村忠孝(和知中学校長)
- ▼森脇英隆(瑞穂小学校長)

■ふるさと体験資料館運営委員(任期三年)

- 北村始子(和田)
- ▼松野堯俊(井脇)
- ▼西田光子(下大久保)
- ▼塩田光枝(鎌谷中)
- ▼上林忠雄(質美)
- ▼水嶋真弓(質美)
- ▼瀧村光男(橋爪)

※退任された皆さん、ご苦労さまでした。新しくお世話になる皆さん、よろしく願います。

いきいき健康術 第93回

『紫外線の功と罪』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波病院の垣田秀治副院長。これからの季節、特に女性が気にされることが多い紫外線に関するお話です。

暖かく気持ちいい春になりました。日差しも日増しに強くなってきましたようですが、そこで気になるのが紫外線。紫外線は四月ごろから急激に増え、六月に最大量に達するとされています。紫外線といつて思い浮かぶのは、皮膚の老化や皮膚がんの原因。あまりいいイメージはありませんね。しかし、その紫外線も体にとってはある程度は必要でもあるのです。

紫外線は、体内に取り込んだビタミンDを活性化させる働きがあります。ビタミンDは、食事から体内に入るわけですが、紫外線による活性化をうけないと体内で働くことができません。そして、活性化されたビタミンDは、骨を作る際に重要な働きをしますので、不足すると骨粗しょう症になり骨折しやすくなります。

紫外線を避けるあまり、ずっと屋内にいたり、紫外線から防護しすぎたりすると筋力が低下するだけでなく、骨までも弱くなり、結果として動くことに不自由な体になってしまいかねません。適度な紫外線を浴びることは体にとって必要です。

では、適度、とはどれくらいでしょうか。紫外線量は、地域によって全然違います。夏は全国



副院長
垣田 秀治 先生 (京丹波町病院)

どこでも一日四、五分間日光に当たれば十分とされていますが、冬は北海道なら八十分、沖縄では八十分と大きな差があります。京丹波町地域あたりでは二十十分といったところでしょう。

そして、食物として取り入れるビタミンDは、サンマやサケ、しいたけなどにたくさん含まれています。春の日差しの中、紫外線を避けすぎず、適度に屋外で運動もして元気な体を維持していきましょう。

お知らせ
京丹波町病院では、平成二十七年四月から、新たに毎週木曜日の午後一時から三時まで小児科の予防接種を行っています。
☎06-02220

活性化の起爆剤に 地域おこし協力隊

今年度、本町が初めて設置した「地域おこし協力隊」。初の隊員として2人を任命しました。町内外での活躍が期待される「地域おこし協力隊」についてご紹介します。

二人を任命 地域おこし協力隊

隊員二人の任命は、四月一日と二十日に役場町長室で行いました。

任命式では、隊員として活動する小松遼太さんと多田衣里さんに対し、寺尾豊爾町長から地域おこし協力隊員に任命する辞令が手渡されました。

今回隊員となった二人は、小松さんが観光振興にかかる活動に、多田さんが、地域の情報発信にかかる活動に従事します。

地域の活力

地域おこし協力隊

本町の隊員として二人を任命した「地域おこし協力隊」では、この協力隊とは、どのようなものでしょうか。

地域おこし協力隊とは、総務省が行っている事業で、都市部で生活している人が、過疎地域に生活の拠点を移し、その地域の活性化に向けた活動を行います。

平成二十六年年度には、四百四十四の自治体で千五百十一人の隊員が活動しました。(総務省発表)

その活動は幅広く、本町も行う観光振興に関する活動をはじめ、農林業の支援、住民の生活支援など多岐にわたっています。

活動期間は、一年以上三年以下となっています。

がんばります 地域おこし協力隊

このたび協力隊員として任命を受けた小松さんと多田さん。お二人に協力隊に応募した経緯や意気込みをお聞きしました。

質問内容

- ①町の地域おこし協力隊に応募したきっかけは
- ②京丹波町の印象は
- ③「地域おこし協力隊」として取り組みたいことは
- ④京丹波町の皆さんに一言

活動内容

情報推進室(町情報センター)に所属し、京丹波町ケーブルテレビの番組制作の補助などを通じた地域の情報発信にかかわる活動に取り組みます。



多田 衣里さん

- ①田舎暮らしに関心がありました。両親が綾部市へ移住しており、近くで仕事を探していたときに、経験を生かせる地域おこし協力隊の募集を知りました。
- ②山に囲まれていて「山が多い」印象です。おいしい食べ物に恵まれていると思います。
- ③皆さんに喜んで見ていただけるような面白い番組作りに取り組みたいです。また、自分の持ち味を生かしてさまざまなことにかかわっていききたいと思います。
- ④取材でお会いすることがあるかと思っています。京丹波町の良いところを見つけていきたいと思っていますので、いろんなことを教えていただけると幸いです。どうぞよろしくをお願いします。

活動内容

町商工観光課に所属し、地域資源の発掘、町が推進する森林、スポーツ、食をテーマとした観光振興の企画立案・実行などの活動に取り組みます。



小松 遼太さん

- ①めぐり合わせです。世界を旅し、日本に帰ってきて、地域活性化に関わりたかったとき、最初に目に飛び込んできたのが、京丹波町地域おこし協力隊だったからです。地域おこしをしている自分の姿を想像して、一番ワクワクしたので応募しました。
- ②自然があふれていて、散歩しているだけで元気をもらえます。それ以上に、町で出会う人が親切なばかりで、一番の魅力はこのまちで暮らす「人」だと感じています。
- ③「外からの目や今まで経験してきたことを生かして地域を元気にしたい」とも思いますが、それよりも地域の持ついいところをいっぱい引き出して、この町はすごいと町内外の人に知ってもらい、子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで誇りの持てるまちへ。その役に少しでも立てればうれしいです。
- ④京丹波町のことをいっぱい知って、感じて、交流していきたいので、どうかよろしくお願いします。

65歳以上の方の 介護保険料を 改定しました

介護保険制度では、3年ごとに介護サービスにかかる費用(介護給付費等)の見込みをもとに保険料の見直しを行います。

京丹波町の介護サービスにかかる費用は、平成24年度～平成26年度(第5期介護保険事業計画期間)は約61億円でした。

平成27年度～平成29年度(第6期介護保険事業計画期間)は介護を必要とする高齢者の増加や認知症施策の推進など本町の地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みの拡充などにより、約67億円に増加する見込みとなりました。また、あわせて、65歳以上の第1号被保険者の保険料負担率が21%から22%に改正されたことから、今回、平成27年度から平成29年度までの介護保険料を改定しました。

●保険料の基準額

第6期の介護サービスにかかる費用のうち、22%は65歳以上の方(第1号被保険者)の保険料によりまかなわれます。

$$\text{基準額} = \frac{\text{必要な介護サービスの総費用} \times \text{65歳以上の方の負担分 22\%}}{\text{65歳以上の方の人数}} = 75,300\text{円}$$

●介護保険料の体系

本人の所得や世帯の課税状況などの負担能力に応じた負担を求める観点から、平成26年度までの11段階(特例段階含む)を基本としつつ、所得区分や基準負担割合を見直し、新たな11段階を設定しました。

段階	対象者要件	保険料(年額)
第1段階 (基準額×0.45)	■生活保護を受給している人 ■世帯全員が住民税非課税で、老齢福祉年金を受給している人 ■世帯全員が住民税非課税で、本人の公的年金等収入金額及び合計所得金額の合計が80万円以下の人	33,900円
第2段階 (基準額×0.70)	■世帯全員が住民税非課税で、本人の公的年金等収入金額及び合計所得金額の合計が80万円を超え120万円以下の人	52,800円
第3段階 (基準額×0.75)	■世帯全員が住民税非課税で、本人の公的年金等収入金額及び合計所得金額の合計が120万円を超える人	56,500円
第4段階 (基準額×0.90)	■本人が住民税非課税で、世帯に住民税課税の人がおり、本人の公的年金等収入金額及び合計所得金額の合計が80万円以下の人	67,800円
第5段階 (基準額×1.00)	■本人が住民税非課税で、世帯に住民税課税の人がおり、本人の公的年金等収入金額及び合計所得金額の合計が80万円を超える人	75,300円
第6段階 (基準額×1.20)	■本人が住民税課税で、合計所得金額が120万円未満の人	90,400円
第7段階 (基準額×1.30)	■本人が住民税課税で、合計所得金額が120万円以上190万円未満の人	97,900円
第8段階 (基準額×1.60)	■本人が住民税課税で、合計所得金額が190万円以上290万円未満の人	120,500円
第9段階 (基準額×1.70)	■本人が住民税課税で、合計所得金額が290万円以上500万円未満の人	128,100円
第10段階 (基準額×1.85)	■本人が住民税課税で、合計所得金額が500万円以上1,000万円未満の人	139,400円
第11段階 (基準額×2.00)	■本人が住民税課税で、合計所得金額が1,000万円以上の人	150,600円

※合計所得金額とは、税法上の用語で、事業所得、給与所得、雑所得(公的年金等)などの合計金額です。

●保険料の納入方法

特別徴収 年金が年額18万円以上の方は、原則として、年6回(偶数月)の年金定期支払いの際に、介護保険料をあらかじめ差し引きます。

普通徴収 年金が年額18万円未満の方は、口座振替や納付書で納入いただきます。また、年度途中で65歳になられた人や転入された人も、はじめは口座振替や納付書で納入いただきます。

●保険料の算定と納入時期

平成27年度の介護保険料は、前年度所得に基づいて6月に賦課決定し、通知します。そのため特別徴収では、原則、4・6・8月分を仮徴収として2月分と同額を納入いただき、6月に決定した年額から仮徴収分を差し引いた額を10・12・2月分の年金から納入いただきます。

また、普通徴収については、6月～3月の10期で毎月納入いただきます。

●低所得者の保険料負担軽減対策の実施

国において、公費による低所得者負担軽減対策が実施されることとなっており、第1段階の保険料は、平成27年度から負担軽減後の金額を年額として納付いただきます。第2・第3段階については、平成29年度から負担軽減対策の実施が予定されています。

地域経済の活性化へ

地方創生スーパー プレミアム商品券

を販売します

町民の皆さんの生活支援、地域経済の活性化を目指し、京丹波町商工会が主体となり、総額1億3千万円、プレミアム率30%の「地方創生スーパープレミアム商品券」を発行します。

販売期間(前期)

平成27年6月1日(月)～平成27年8月31日(月)

平日午前9時から午後5時まで

*6月1日(月)の丹波マーケス会場のみ午後8時まで

*販売期間中、完売となった時点で販売終了

※後期の販売は、平成27年10月1日(木)から平成28年1月29日(金)までを予定しています。

使用期間(前期)

平成27年6月1日(月)～平成27年9月30日(水)

販売窓口

京丹波町商工会

本所(蒲生野口45番地1) 電話82-0575

瑞穂支所(橋爪松山53番地) 電話86-0003

和知支所(本庄花ノ木1番地4) 電話84-0192

*6月1日の販売初日のみ、道の駅丹波マーケスコミュニティーホール、京丹波町瑞穂支所および和知支所に特設窓口を開設

購入方法

- 前期販売にあたり、1人最高10万円まで購入が可能です。
- 1万円単位で購入できます。1万円で1万3千円分の商品券が購入できます。
- 家族分をまとめて購入する場合は、1人につき家族1人分を追加で購入できます。

使用できる店舗

- 町内に拠点を構え、事前登録をしている取扱店などで使用できます。
- 取扱店舗は、「プレミアム商品券取扱証」を掲示しています。

その他

- ビール券やギフト券などの商品券、プリペイドカード、たばこ事業法にもとづくたばこには利用できません。
- 現金との引き換えはできません。また、つり銭は出ません。

【問】京丹波町商工会 ☎82-0575

安心・安全への活動を誓う

町消防団入退団 および役員任命式

町消防団の入退団および役員任命式が、四月一日、蒲生野中学校体育館で行われました。式では、町消防団の梅原好範団長から、今年度部長や班長を務める団員への任命書の交付と、新たに入団する団員への任命書の交付、退団した団員への辞令が交付されました。

町消防団で初の女性団員として入団した予防啓発部の桐村杏菜さんは、梅原団長に対し「良心に従い忠実に消防の義務を遂行することを誓います」と宣誓し



宣誓書を読み上げる桐村さん(蒲生野中学校・蒲生)

ました。なお、入退団者および表彰受賞者は次の皆さんです。(敬称略)

新入団員

丹波支団

- 森崎光佳▼澤田卓伸
- ▼伊野琢人▼本嶋直也
- ▼井上慎也▼武内克也
- ▼山下大輔▼山田健太
- ▼井上昭年▼岩内健吾
- ▼立花嵩土▼小森健太
- ▼野々口大祐▼上田伸斗
- ▼疋田貴礼

瑞穂支団

- ▼我妻哲志▼山崎公暁
- ▼吉田真哉▼大黒義晃
- ▼藤森大輔▼塩田真弘

和知支団

- 園田 巧▼河野雄友
- ▼片山恵太▼片山義章
- ▼片山茄寿樹

予防啓発部

- 桐村杏菜

退団者

丹波支団

- 宮本勝彦▼徳島俊行
- ▼土井修二▼新 智史
- ▼谷澤利夫▼河瀬哲也

- ▼赤澤孝徳▼湊 公雄
- ▼村山直樹▼山崎明彦
- ▼松本 稔▼松井健一郎
- ▼小森景介▼澤田 稔
- ▼八木克典▼四角 均
- ▼西田宗央▼安田 守

瑞穂支団

- ▼平田正明▼平田真祐
- ▼吉田直博▼橋本賢二
- ▼貞守 順▼田中章吾
- ▼山田共夫▼岡本広由
- ▼上田浩二

和知支団

- ▼藤井繁徳▼野口明彦
- ▼野口太志▼光枝和男
- ▼早川政敏▼田井慎也
- ▼野間寿久▼山根勇次
- ▼梅原義幸▼正田 一
- ▼片山明彦▼松本智明
- ▼十倉浩之▼片山英夫

公益財団法人

日本消防協会会長表彰

- 功績章 隅田光郎(副団長)
- 精績章 堀内浩二(支団長)
- ▼堂本 学(分団長)

勤続章

- 梅原知晴▼石橋三司
 - ▼越浦勝司▼前林良明
 - ▼松下信之▼片山明彦
- ※階級は表彰時点のものです。

長年の功績に感謝

行政相談委員感謝状贈呈

平成二十七年三月末をもって行政相談委員を退任された塩田喜一さん(三ノ宮)と上田えりさん(豊田)に対し、感謝状が贈られました。

このうち塩田さんへの贈呈は、四月十五日、役場町長室で寺尾豊爾町長立会いのもと行われました。

塩田さんは、平成十一年四月に行政相談委員に委嘱されてか

ら八期十六年間に、行政サービスに対する相談などに尽力されま

した。贈呈式では、総務省京都府行政評価事務所の根上純一所长が、高市早苗総務大臣からの感謝状を塩田さんに伝達しました。

感謝状を受け取った塩田さんは、任期中にどのように答えればいいのかわからないような相談があったことなどを話し、「いろいろなることがあり、人生のかけがえのない財産になりました。

今後は、一町民として貢献していきたいです」と、任期中のことを振り返りながら話していました。

なお、退任および委嘱された相談委員の皆さんは次のとおりです。(敬称略)

行政相談員(任期二年)

- 【新任】長谷川博文(水原)
- ▼山田 進(高岡)
- 【退任】塩田喜一(三ノ宮)
- ▼上田えり(豊田)
- 【再任】片山俊明(本庄)



感謝状を受け取る塩田さん(役場町長室・蒲生)

継続した支援の力

スポーツ少年団双葉町支援活動

町スポーツ少年団が、本町の友好町福島県双葉町を支援する活動として、四月十一日、須知高校農場でジャガイモの植え付けを行いました。

同少年団では、平成二十三年三月十一日の東日本大震災以降、双葉町を支援する取り組みとして、自分たちで作ったジャガイモを届けています。

今回で五回目となる植え付けには、小・中学生の団員八十四人

が参加。各団のリーダーを中心に、五つの班に分かれて須知高校食品科学科の生徒の協力を得ながら種イモを植え付けていきま

した。参加した土佐恒生君(大朴)は「年下の子に植え方を教えながらできました。自分たちが作ったジャガイモで喜んでもらえたらうれしいです」と、協力して種イモを植え付けた畑を見ながら話していました。

植えつけたジャガイモは、今後、団員らが交代で草引きや土



種イモを植え付ける団員(須知高校農場・豊田)

寄せをして、七月中ごろの収穫を目指します。

心和む空間を演出

ふるさと人形展

今年で二十四回目となるふるさと人形展(町ふるさと体験資料館運営委員会・町教育委員会主催)が、四月二日から六日まで、みずほ人形の家みやび(質美)で行われました。二千体を超える人形たちが、期間中に訪れた約四百五十人の人たちの目を楽しませました。

今回の人形展開催に向け、主催する同委員会の委員は、三月中ごろから順次人形たちを配置。今年新たに持ち寄られた人形も並べました。

同委員会の北村始子さん(和田)は「人形たちはひとつずつ違う顔をしているので、全て見てあげてほしい。昔のことを思い出して涙する人もあります」と、並べられた人形を見ながら話していました。



並べられた人形を前に話す北村さんら(みずほ人形の家みやび・質美)

わたしたちの町

人口	15,389(-16)
男	7,276(-15)
女	8,113(-1)
世帯数	6,394(+10)
5月1日現在 / ()は前月比	

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	9,287,130円
復興支援募金	6,569,766円

*平成27年4月30日現在

新生活がスタート

■入学式・入所式

入学式・入所式が、町内の小・中学校、保育所、幼稚園で行われました。新入生らは、これから始まる集団生活への期待と不安を胸に、式に参加しました。

四月八日に行われた町内五小学校の入学式では、八十九人が入学。このうち、瑞穂小学校では二十六人が入学し、義務教育九年間をスタートしました。

式では、緊張した表情を見せる新入生を前に、在校生を代表して居谷舞花さんと松見悠生さんが「わからないことがあれば、周りのお兄さんお姉さんに聞いてください。これから瑞穂小の仲間として仲良くしていきたいと思います」と、歓迎の言葉を述べました。

このほか、四月六日には三保育所で五十九人、四月九日には三中学校で百七人、四月十三日には須知幼稚園で十九人が、新生活をスタートさせました。



名前を呼ばれ大きな返事をして立つ新入児(上豊田保育所・豊田)



在校生に拍手で迎えられる新入生(瑞穂小・大朴)



誓いの言葉を述べる新入生(和知中・市場)

町内を車で走ると、あちこちで田植えをされている町民の皆さんをお見かけする季節になりました。

編集子の耕作する田んぼも平成25年の台風で受けた被害の復旧もようやく終わり、また、新たに耕作する田が増えるなど、忙しい季節になってきました。

秋の実りを楽しみに、一つひとつ作業をこなしていこうと思います。(T)

編集後記

京丹波町のシンボル

【町の鳥】
うぐいす



【町の木】
イチヨウ



【町の花】
つつじ

